

■病害虫と適用薬剤の使用基準

(令和2年12月現在)

（殺菌剤） 農薬名	使用時期 日時まで	使用回数 回以内	作用効果	毒性	適用病害虫名								希釈倍数	有機栽培
					炭疽病	輪斑病	新梢枯死症	網もち病	もち病	褐色点星病	黒葉腐病	赤焼病		
アミスター20フロアブル	14	3	予防・治療	普	○	○	○	○	○				2,000倍	
インターフロアブル	7	2	予防・治療	普	○	○	○	○	○	○			*5,000~8,000倍	
オンリーワンフロアブル	7	2	予防・治療	普	○		○	○	○	○			*2,000~3,000倍	
カスミンボルドー (カッパジシホ水和剤)	30	1	予防・治療	普	○	○	○			○			1,000倍	
クプロシールド	3	-	予防	普	○				○				*500~1,000倍	○
コサイド3000	14	-	予防	普	○				○	○			1,000倍	○
スコア顆粒水和剤	7	2	予防・治療	普	○	○	○	○	○	○			2,000倍	
Zボルドー	7	-	予防	普	○								*400~500倍	○
ダコニール1000	10	1	予防	普	○	○	○	○	○	○			*700~1,000倍	
ドイツボルドーA	14	-	予防	普	○				○	○			*500~1,000倍	○
ナリアWDG	14	2	予防・治療	普	○	○	○	○	○	○			2,000倍	
ファンタジスタ顆粒水和剤	7	1	予防・治療	普	○	○	○	○	○	○			3,000倍	
フジールフロアブル	14	-	予防	普	○				○				500倍	
フロンサイドSC	14	1	予防	普	○	○	○	○	○	○			2,000倍	
フリントフロアブル25	14	2	予防・治療	普	○	○	○	○	○	○			*2,000~3,000倍	
ベフドー水和剤	7	2	予防	普	○								*500~700倍	
ムッシュボルドーDF	7	1	予防	普	○					○			500~1,000倍	○

* 日中、露滴出の少ない場合は希釈倍率が異なる場合があります。

（殺虫剤） 農薬名	使用時期 日時まで	使用回数 回以内	作用効果	毒性	適用病害虫名												希釈倍数	有機栽培
					カンザワハダニ	チャノナガサビダニ	チャノホコリダニ	チャノカマモンハマキ	チャハハマキ	チャノホンガ	ヨモギエダシヤク	クワシロカイガラムシ	チャノアザミヤドリ	チャノアザミヤドリ	チャノアザミヤドリ	チャノアザミヤドリ		
アクタラ顆粒水溶剤	7	1	速効	普													*2,000~3,000倍	
アグリメック	7	1	速効	劇	○	○	○	○									1,000倍	
アフーム乳剤	7	1	速効	普													*1,000~2,000倍	
アフロードエースフロアブル	14	2	速効	普	○	○											1,000倍	
ウララDF	7	1	速効	普													*1,000~2,000倍	
エクシレルSE	7	1	速効	普													2,000倍	
エスマルクDF	7	-	速効	普													1,000倍	○
カスケード乳剤	7	2	速効	普	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4,000倍	
ガンバ水和剤	14	1	速効	劇													*1,000~1,500倍	
キラップフロアブル	7	1	速効	普													2,000倍	
グレーシア乳剤	14	1	速効	普	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*2,000~3,000倍	
コテツフロアブル	7	2	速効	劇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2,000倍	
コルト顆粒水和剤	7	2	速効	普													*2,000~3,000倍	
サブリナフロアブル	7	-	速効	普													1,000倍	○
サムコルフフロアブル10	3	1	速効	普													*2,000~4,000倍	
サンクリスタル乳剤	前日	-	速効	普	○	○											300~600倍	○
サンマイトフロアブル	14	2	速効	劇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*1,000~2,000倍	
除虫菊乳剤3	10	3	速効	普													*500~1,000倍	○
スタークル顆粒水溶剤	7	2	速効	普													2,000倍	
スプラサイド乳剤40	14	1	速効	劇													*1,000~1,500倍	
ゼンターリ顆粒水和剤	7	-	速効	普													1,000倍	○
ダニゲッターフロアブル	7	1	速効	普	○	○	○										2,000倍	
ダニコングフロアブル	7	1	速効	普	○												2,000~4,000倍	
ダニサラバフロアブル	7	2	速効	普	○												1,000~2,000倍	
ダントツ水溶剤	7	1	速効	普													*2,000~4,000倍	
テッパン液剤	3	1	速効	普	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*1,000~2,000倍	
茶ちゃっとフロアブル	14	1	速効	普	○	○											2,000倍	
ディアナSC	前日	1	速効	普													2,500~5,000倍	
デルフィン顆粒水和剤	7	-	速効	普													*1,000~2,000倍	○
ノーモルト乳剤	7	1	速効	普													2,000~4,000倍	
ハーベストオイル	注1	-	速効	普	○												*50~150倍	○
ハチハチ乳剤	14	1	速効	劇	○	○											*1,000~1,500倍	
ハマキコン-N	注2	-	長期	普													150~250本/10a	○
ハマキ天敵	前日	-	長期	-	○	○											1,000~3,000倍	○
バリアード顆粒水和剤	7	1	速効	劇													*2,000~4,000倍	
バロックフロアブル	7	1	速効	普	○												1,000~3,000倍	
ファルコンフロアブル	7	2	速効	普													*4,000~8,000倍	
フェニックスフロアブル	7	1	速効	普	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*2,000~4,000倍	
ブルートMC	注3	1	長期	普													1,000倍	
マイトコーネフロアブル	注4	1	速効	普	○	○											1,000倍	
ミルベノック乳剤	7	1	速効	普	○	○	○										1,000倍	○
モスピラン顆粒水溶剤	7	1	速効	劇													4,000倍	
レビクリンDF	-	-	速効	普													500~1,000倍	○

注1. ハーベストオイルは、夏期（5~9月）、秋冬期（10~3月）
 注2. ハマキコンNは成虫発生初期~終期
 注3. ブルートMCは、1月~3月（但し、一番茶摘採30日前まで）
 注4. マイトコーネは、摘採14日前まで（但し、遮光する栽培では遮光開始14日前まで）

■薬剤の特性・特徴

殺菌剤		
薬剤の種類	薬剤名	主な特徴・留意点
無機銅剤系	水酸化第二銅 塩基性塩化銅 塩基性硫酸銅	銅イオンの殺菌効果を活かした剤で、作用は予防効果である。 適用範囲は広いが、効果はやや緩慢である。 治療効果はないが、耐性菌の発現の可能性は少ない。 黒褐色微小斑の薬害を生じることがあるが、実害はない。 天然物で安全性は高い。 有機栽培や米国輸出茶栽培に使用可能である。
有機塩素系	クロロタニル(TPN) ダコニール1000	殺菌作用は予防効果で、残効性が極めて優れる特徴がある。 前雨性があり、紫外線にも安定し残効がある。 適用範囲は極めて広く、多くの作物の糸状菌病害に適用がある。 性害の発生はない。茶病害では炭疽病など殆どの病害に有効な基幹防除剤である。 炭疽病は感染の生じる雨前、輪斑病は摘採直後の使用で有効である。
銅剤+抗生物質 (塩基性塩化銅+ カスガイシ)	○カスミンボルドー ○カッパシホ水和剤	銅剤と浸透移行性がある抗生物質カスガイシの混合剤で予防・治療効果を示す。 残効性も優れる。 輪斑病にも効果が高く、摘採3日後までの散布で有効である。 使用時期（摘採30日前）使用回数（1回）に留意する。 耐性菌が発現しやすい。 米国輸出茶栽培に使用可能である。
EBI系	インターフロアブル オンリーワンフロアブル スコア顆粒水和剤 ラリー水和剤	エルゴステロール阻害による直接殺菌効果がある。浸透移行性があり、感染後発病を阻止する治療効果は極めて高いが、予防効果は低い。 炭疽病、もち病、網もち病、褐色点星病には卓効がある。 薬剤間で、効力に差がある。選択性があり、輪斑病には効果がない。 感染が生じる雨前継続散布で効果が高い。 連用すると耐性菌発生が懸念される。 オンリーワンはやや残留性がやや高いのが懸念されている。
ベンゾイミダゾール系	トップジンM	浸透移行性があり、直接殺菌作用を示す。治療効果が高く、速効的で予防効果は低い。 炭疽病・輪斑病に特効を示していたが、耐性菌発生で効果は低下し、現在はほとんど使用されない。
ストロビリン系 (ベンジルカーバメート系)	○アミスター20フロアブル ナリアWDG ファンタジスタ顆粒水和剤 フリントフロアブル25	作用は予防効果と幾分浸透移行性もあり、治療効果も示す。 予防効果の残効性は低い。適用範囲は比較的広い。 炭疽病・新梢枯死症に卓効を示し、輪斑病には摘採3日後までの散布で有効（フリントを除く）である。 炭疽病、網もち病に対する効果はやや低い。地域により耐性菌がみられるため連用・多用は避ける。ファンタジスタは系統的には異なるが、交差耐性を示す。 アミスターは米国輸出茶栽培に使用できる。
グアニジン系剤	ベフドー水和剤	殺菌作用は銅剤とグアニジン系の協働作用で安定した予防効果を示す。 残効性は高い。治療効果はない。 茶病害の殆ど（赤焼病にも）有効で、基幹防除剤に適する。 耐性菌発生の可能性は少ない。
フルアジナム剤	フロンサイドSC	殺菌作用は予防効果で、残効性もある。治療効果はない。 適用範囲は比較的広く炭疽病、輪斑病・新梢枯死症・もち病に有効である。 炭疽病には感染の生じる雨前、輪斑病は摘採直後の使用で有効である。 耐性菌発生の可能性は少ない。

○の薬剤はUSサブライドで使用できる。

殺ダニ剤		
薬剤の種類	薬剤名	主な特徴・留意点
オキサゾリン系 エトキサゾール	○ハロックフロアブル	殺ダニ作用は心化阻害、幼虫・幼若虫に対する脱皮阻害である。殺卵作用もある。 殺成虫作用はないが、処理された雌成虫の産下卵心化抑制作用がある。 浸透移行性はなく、主に接触的に作用する。 速効的で、残効性が優れ、長期発生を抑える。 越冬後の発生初期（産卵・幼虫心化・増殖期）使用に適する。 カブリダニなど天敵、有用昆虫に対する影響は少ない。 *米国、EU輸出茶栽培に使用できる。
同混合剤	茶ちゃっとフロアブル	ハロックとマイトクリーンの混合剤である。 サビダニ類に活性の高いマイトクリーンの混合によりハダニ、サビダニの同時防除ができる。
環状ケトエノール系 スピロメシフェン	○ダニゲッターフロアブル	脂質の生合成を阻害し、殺ダニする。ハダニの卵・幼虫に高い活性を示す。 殺成虫効果は弱いですが、雌成虫の産卵数減少や産下卵の未心化、心化後幼虫死亡などの作用効果がある。 速効的で、長期間密度抑制効果があり、越冬後の産卵、増殖開始期の防除に適する。 浸透移行性はない。サビダニ類、チャトグコナジラミに対する防除効果もみられる。 天敵、有用昆虫に対する影響は少ない。 *米国輸出茶栽培にも使用できる。
シフルメトフェン	ダニサラバフロアブル	共に呼吸阻害による殺ダニ作用である。 ハダニ類の全発育ステージに活性を示し、特にダニサラバは幼虫に対する効果は高い。 浸透移行性はなく、効果発現は速効的で、残効性も優れ、多発生状態での防除効果が高い。 天敵、有用昆虫などへの影響は少ない。 *ダニサラバは春期や夏期の発生が多い状況での防除に適する。
シエノピラフェン	スターマイトフロアブル	呼吸阻害により、殺ダニ活性を示す。 ハダニの成虫、幼若虫に高い活性を示し、発生増加期でも効果を示す。残効性も優れる。 浸透移行性はないので、葉裏に十分散布する。 天敵、有用昆虫に対する影響は少ない。
ピフルピミド	ダニコングフロアブル	呼吸阻害により、殺ダニ活性を示す。 ハダニの成虫、幼若虫に高い活性を示し、発生増加期でも効果を示す。残効性も優れる。 浸透移行性はないので、葉裏に十分散布する。 天敵、有用昆虫に対する影響は少ない。
ピフェナゼート	マイトコーネフロアブル	浸透移行性はなく、接触毒、吸汁毒で、活性を示す。 ハダニ、サビダニ類に高い活性を示し、成虫、幼若虫に高い効果で、殺卵効果は劣る。 速効的殺虫ではないが、麻痺状態から3~4日で死亡させる。残効性もある。 既存の殺ダニ剤に感受性の低下したダニにも有効である。 有用昆虫、天敵への影響は少ない。
マクロライド系 ミルベメクテン	ミルベノック乳剤	接触毒作用もあるが、吸汁毒作用が強い。 殺成虫、殺幼若虫効果が強く、産卵抑制効果もある。 極めて速効的で、残効性はやや劣る。 ハダニ多発時の速効を期待する状況での防除に適する。 *広範囲のダニに有効であるが、天敵に影響が強く、散布後に異常増殖がみられることがある。

○の薬剤はUSサブライドで使用できる。

殺虫剤		
薬剤の種類	薬剤名	主な特徴・留意点
有機リン剤	スプラサイド乳剤10	古くからある有機合成農薬で、毒性は強いが、低毒性化している。 速効性・残効性・浸透性など作用特徴も剤により異なる。 広範囲の害虫に強い殺虫力を持つ。 天敵・環境への影響は比較的大きい。
IGR系剤 (脱皮阻害剤)	○アフロードエースフロアブル カスケード乳剤 ノーモルト乳剤 ファルコンフロアブル	昆虫の皮膚を形成するキチン質の合成を阻害し、脱皮阻害作用により殺虫作用を示す。 効果発現は遅効的である。適用範囲も狭く、主に鱗翅目害虫に効果を示すものが多い。 天敵類や昆虫以外の生物・生態系への影響は少なく、人畜への安全性は高い。 アフロードエースはクワシロカイガラムシ、チャノミドリヒメヨコバイなど半翅目害虫に有効である。 アフロードエースは米国輸出茶栽培に使用できる。
幼若ホルモン剤	ブルートMC	昆虫の発育成長（変態・脱皮）ホルモン代謝に作用し殺虫する。 残効性極めて優れ（概ね1年）、待受け型で接触的に作用する。 散布適期の見極める必要がなく、越冬期（農閑期）防除が可能である。 蜜に対する毒性は極めて強く、菜園周辺（2.6km以内）は使用できない。
ネオニコチノイド剤	○アクタラ顆粒水和剤 ○キラップフロアブル ○スタークル(アルバリン) 顆粒水和剤 ○ダントツ水溶剤 バリアード顆粒水和剤 ○モスピラン顆粒水溶剤	神経系に作用し、神経伝達遮断により殺虫する。 接触毒、食毒で殺虫作用を示す。速効的で、残効性も優れる。浸透移行性も高く、茎葉・根などから吸収されて効果を示す。 ウンカ・スリップス・アブラムシ・ホリガなどに効果を示す。 モスピラン、バリアードはホリガに対する効果が高い。 薬剤抵抗性が生じやすく、ウンカ、スリップスなどに対しアドマイヤーなどの剤で薬剤抵抗性発現がみられる。現在、スタークル(アルバリン)は感受性低下がなく、効果がある。 スタークル、アクタラ、モスピラン、ダントツは米国輸出茶栽培に使用できる。
BT剤	○エスマルクDF ○サブリナフロアブル ○ゼンターリ顆粒水和剤 ○デルフィン顆粒水和剤 ○レビクリンDF	微生物BT菌の生菌および産生毒素を薬剤にしたものである。 鱗翅目害虫のみに有効で、幼虫に食毒的に作用し、中毒殺虫する。 若齢幼虫に対する活性が高いので、散布適期を失ないようにする。 効果発現はやや遅効的で、ホリガに対しては卵・葉潜期散布の効果は低く、葉縁巻葉期散布で、虫量抑制による防除効果を示す。 作用性が選択的のため、天敵、他の生物など生態系に影響は少なく、安全性が高い。 有機農産物JAS規格において使用が認められ、輸出茶栽培にも使用できる。
呼吸代謝系阻害剤	○クロロフェナビル ○コテツフロアブル	害虫体内で呼吸エネルギー代謝系阻害の殺虫作用で、接触毒・食毒作用である。 効果発現は剤により異なる。コテツ、ガンハチは速効的、ハチハチは遅効的である。 残効性は優れる。
ジアフェンチウロン	ガンバ水和剤	主にウンカ、スリップスに有効な基幹防除剤で、ダニ類（特にサビダニ・ホコリダニ）にも活性を示し、サビダニはサビダニ、ホコリダニに活性が高い